

第6回 大谷・小鹿地区まちづくり検討会議

令和4年度検討会議・ワークショップの振り返りとまちづくりの方針、課題の整理

令和5年6月29日

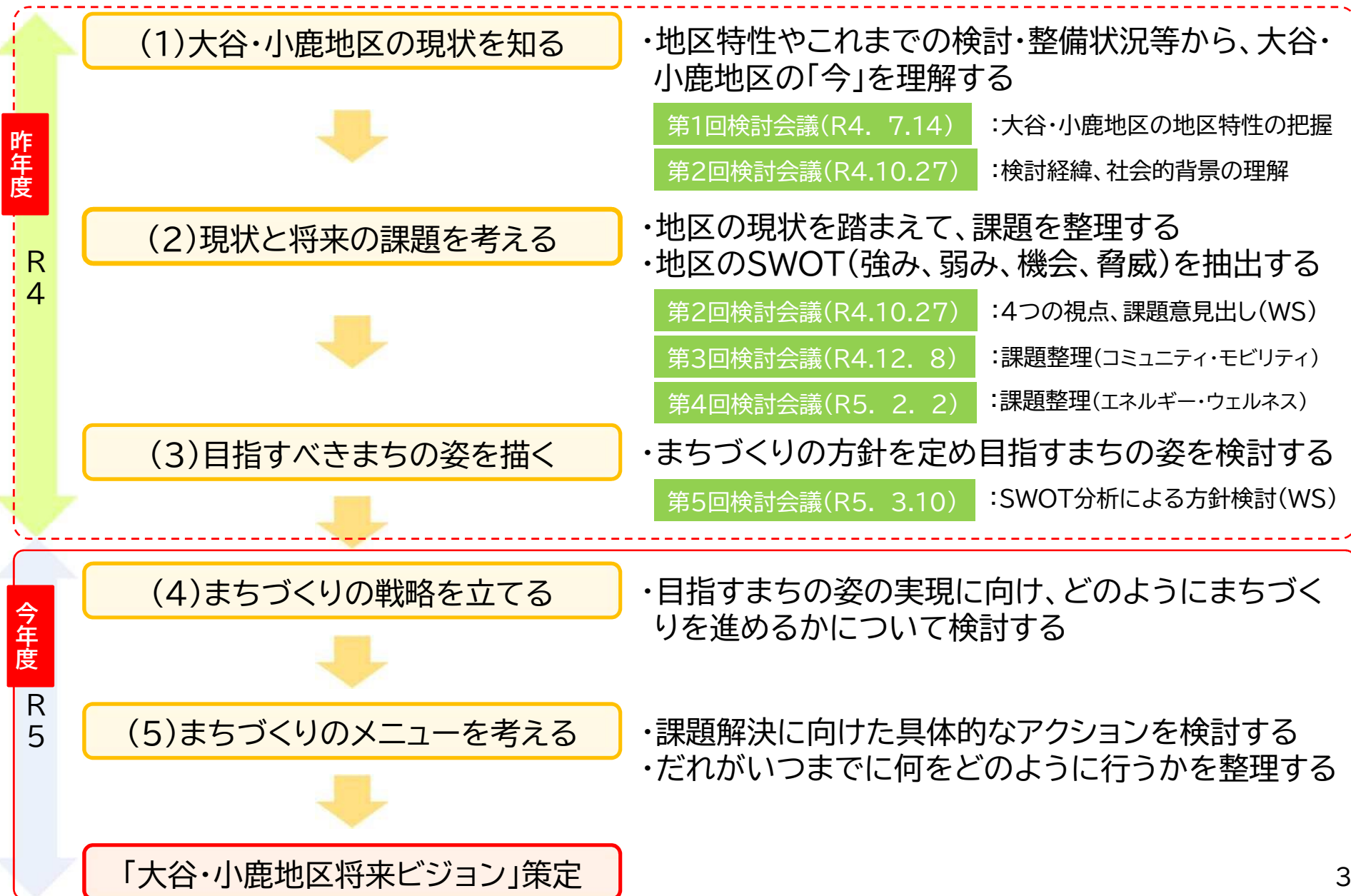


(1) 令和4年度検討会議・ワークショップの振り返り … p3~4

(2) まちづくりの方針、課題の整理(4つの視点) …p5~15

(1) 令和4年度検討会議・ワークショップの振り返り

○検討・議論の流れ



(1) 令和4年度検討会議・ワークショップの振り返り

●これまでの検討の流れ

- 第2～5回の検討会議を経て、4つの視点から課題、取組方針について議論

第2回検討会議 (R4.10.27)・・・意見出し

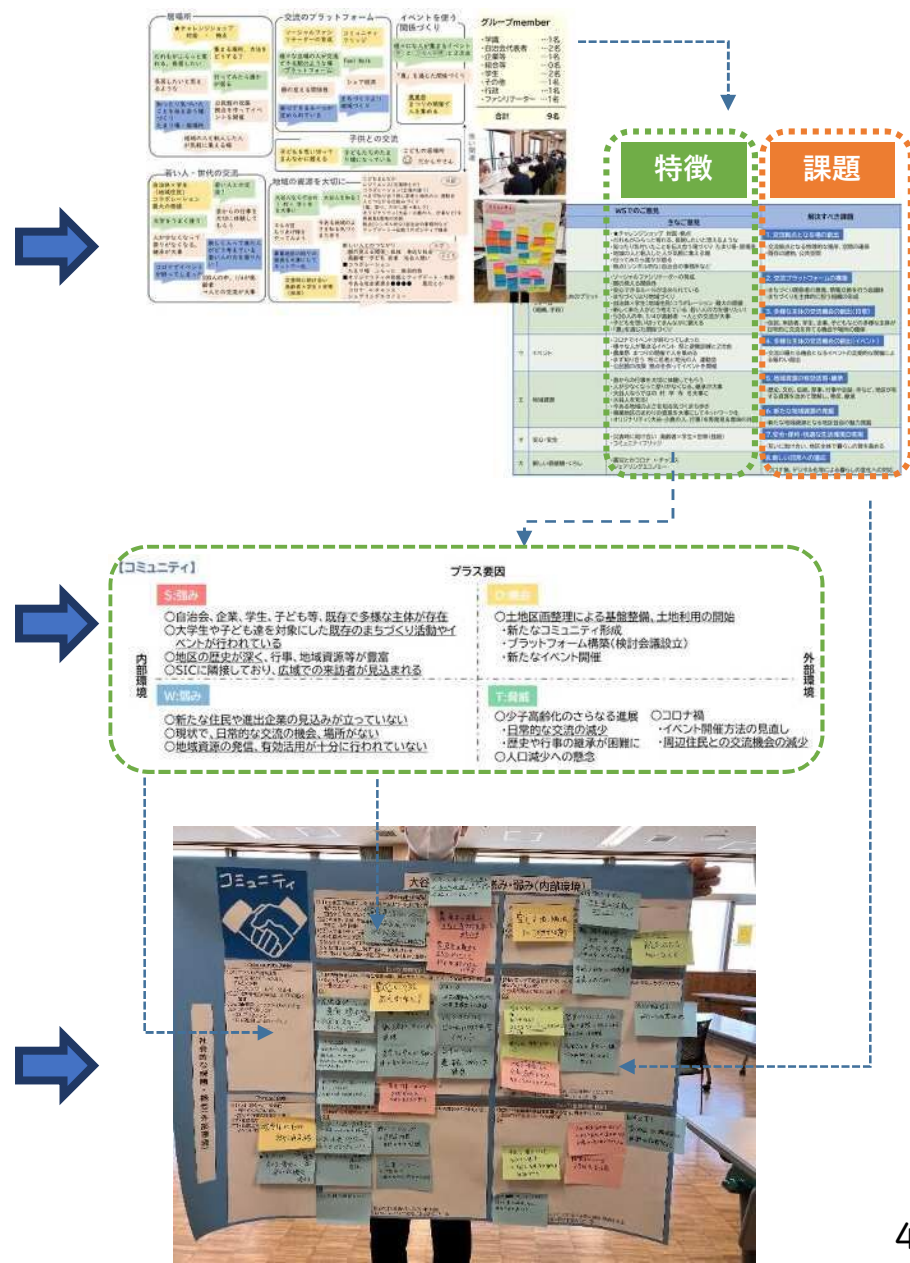
- 4つ視点から地区の**特徴**や**課題** (取組テーマ) について意見出しを行う

第3回検討会議 (R4.12.8)・・・SWOT整理 第4回検討会議 (R5.2.2) (地区の特徴)

- 地区の**特徴**に関する意見をもとに、**地区の弱み・強み、機会・脅威** (SWOT: 内部・外部環境の状況) の整理を行う

第5回検討会議 (R5.3.10)・・・SWOT分析 (方針の検討)

- **地区の弱み・強み、機会・脅威** (SWOT) と、**検討課題** (取組テーマ) の関係を再整理し、**今後の地区の取組の方針** について考える (今後、取組みを進める上で地域で共有する共通の考え方や価値観を整理)



(2) まちづくりの方針、課題の整理 (4つの視点)

○まちづくりの4つの視点



(2) まちづくりの方針、課題の整理 (4つの視点)

コミュニティ・課題

WSでのご意見		解決すべき課題
分類	主なご意見	
ア	空間・場所	<p>1. 交流拠点となる場の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流拠点となる物理的な場所、空間の確保 ・既存の建物、公共空間
イ	交流・連携のためのプラットフォーム (組織、手段)	<p>2. 交流プラットフォームの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり関係者の意見、情報交換を行う会議体 ・まちづくりを主体的に担う組織の形成 <p>3. 多様な主体の交流機会の創出(日常)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民、来訪者、学生、企業、子どもなどの多様な主体が日常的に交流を持てる機会や場所の確保
ウ	イベント	<p>4. 多様な主体の交流機会の創出(イベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の最たる機会となるイベントの定期的な開催による賑わい創出
エ	地域資源	<p>5. 地域資源の有効活用・継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史、文化、伝統、祭事、行事や史跡、寺など、地区が有する資源を改めて理解し、発信、継承 <p>6. 新たな地域資源の発掘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな地域資源となる地区独自の魅力発掘
オ	安心・安全	<p>7. 安全・便利・快適な生活環境の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いに助け合い、地区全体で暮らしの質を高める
カ	新しい価値観・暮らし	<p>8. 新しい日常への適応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、デジタル化等による暮らしの変化への対応

(2) まちづくりの方針、課題の整理 (4つの視点)

コミュニティ・方針

		大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)	
		Strength(強み)	Weakness(弱み)
		【S×O:積極方針】	【W×O:改善方針・弱点強化】
社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会)	<p>(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント</p> <p>01 大谷・小鹿の人々の良さ(性格、伝統)が最大限発揮され、それを発信し新たなまちづくりに活かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農・歴史を未来につなぐ多世代交流まちづくり ・農・歴史の魅力をさらに磨いて新たなまちづくりに活かす ・高速道路沿いの看板・掲示板設置 ・公園を使用したマルシェ・イベントの開催 ・歩きたくなるまちにする →自然豊かな景観、商店街、観光地、大きな公園、ウォーキングルートの設定やスタンプラリーなどがあると楽しい ・世代間交流が盛んなまち、しやすいまち(公園やスポーツ施設を充実) ・農・ビニールハウスを観光資源に! ・学校ぐるみで“農”資源に触れる機会を作る ・静大農学部、サークル等の連携 ・通学する学生が学校の外に目を向ける ・歴史・行事につながるクイズゲームを大谷小巻き込んで行う ・S4×O1 地区の歴史のアーカイブ化 地球環境史との連携 ・S4×O3×O4 ビニールハウスを用いたイベントの開催 ・S4×O4 農・稲に特化した遊具 	<p>(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組</p> <p>02 地域に情報・人・モノの交流場所(地域のヘソ)を作り、顔の見えるつながりが新たな価値を生み出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特徴を活かし注目度のある新しいコミュニティづくり ・ヘソづくり→触れ合える、知り合える場の創出 ・昔から地元コミュニティが強い。周辺も含めてまとめるための「ヘソ」共同スペースが必要(現在は場所を借りている) ・交流の中心地 ・組み合わせる 幼×老 自治会×大学生。小学生 地元の方×他から来た人 学校×住民×地域資源 ・農業だけではなく大谷・小鹿の自然に触れられる、知って貰える機会を作る ・地域に情報・人の交流場所を作り、顔の見えるつながりをつくる ・伝統文化を学生と一緒に作る(紹介することから始める) ・空も人流・物流に活用できる街 ・W1×O1 ドローンの基地局
	Threat(脅威)	<p>(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること</p> <p>03 大谷・小鹿の人的・歴史的資源を活かし、新たに入ってくる人々との未来のコミュニティを創り出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生が住み続けられるまち ・住民の知る機会、参加する機会の増加。歴史・地形・店を活かす ・大谷・小鹿情報誌 →若者子供も読めるフリーペーパーの発行 ・大谷・小鹿地区のお店を回るスタンプラリー ・オリジナル道しるべ、看板 ・幼老複合施設をつくる ・野外ワークショップ →感染対策 自然の中の体験 ・企業インターン 大学生向け(県外から来た大学生がそのまま住む) 	<p>(想定される最悪の事態を回避するためには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策</p> <p>04 魅力ある地域のポテンシャルを活かした安全・安心なまちづくりへの多様な人の連携づくり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供は増えている。と同時に高齢化も進行 →子供と高齢者の新たな組織づくり ・人口減少、高齢化などで人が孤立化が進まないよう日頃からのつながりづくり ・治安に対する対策。 →夜でも歩ける場所、明るい場所 ・防災イベントで 大学生×自治会の連携 ・W4×T1 南地区は徹底的に閑静な住宅地に

(2) まちづくりの方針、課題の整理 (4つの視点)

WSでのご意見		解決すべき課題
分類	主なご意見	
ア	移動環境 (歩行者・自転車)	<p>1. 移動の安全性・快適性向上 (歩行者・自転車)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行者・自転車にとって移動しやすい空間の整備 歩道の広さ、平坦性など
イ	移動手段 (近距離移動)	<p>2. 近距離移動の利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民の近隣移動や来訪者の地区内移動の手段確保
ウ	移動手段 (公共交通・多様な交通)	<p>3. 公共交通の利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道、バス、タクシー等、既存の公共交通の利便性向上 <p>4. 多様な移動手段の効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の移動手段を組み合わせ活用 移動手段の多様化への対応
オ	移動手段 (自動車)	<p>5. 自動車利用の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> 過度な自動車利用を避け、自動車利用を適正化する <p>6. 自動運転技術への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動運転技術に対応した道路、施設の整備
カ	移動ニーズの把握	<p>7. 地区周辺移動の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通系情報基盤(既存データ)を活用した移動ニーズの把握、データ活用
キ	物流	<p>8. 物流の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな物流システムの構築 移動販売等、地区内物流の集約化

(2) まちづくりの方針、課題の整理 (4つの視点)

モビリティ・方針

		大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)	
		Strength(強み)	Weakness(弱み)
		【S×O:積極方針】	【W×O:改善方針・弱点強化】
社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会)	<p>(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント</p> <p>01 SICを活かしたまちづくり、次世代モビリティの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SICからの来訪者をターゲットとした拠点整備(みちの駅など) ・インターの利用、新ETC、ETC2への対応 ・高速道路ETCによる一時退出、再進入 ・インターの利用 ・次世代モビリティの導入実験(自動運転等) ・道路整備×自動運転で、試運転・実験、EVステーション設置など ・バス路線の拠点化を進めるBRT,高速バスの導入 ・歩行者や自転車にとっての利便性を多くする ・バスの利用を多くする ・歩行者や自転車に優しい道路環境を整備 ・「車が無くても生活しやすい街」のアピールをして若い夫婦の子育てを助ける ・周辺の観光資源との周遊交通の充実 ・脱炭素先行地域の推進モデル地区となり、太陽光発電にて得た電力を活用したEVステーションをつくり、市内のMaaS推進基地となり得る ・中心部との距離があり交通手段も乏しいので、東静岡駅を取り込んだ交通システムの構築。あえて静岡駅周辺と距離を置く 	<p>(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組</p> <p>02 乗り換え拠点の利便性向上(公共交通の利便性強化)、公共交通の再編・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅が遠いなら自転車利用(若い人は)パルクルの場所と台数増加 ・駐輪場の設置。観光客の呼び込み ・地区内を周遊するバス等の導入により、自動車への依存度を下げる(買い物、病院等) ・バス再編・公共交通の強化 ・観光客を根付かせるためのMaaSの開発。 →オクシズ、匠宿、日本平、清水など、ソフト(演劇、イベント、飲食店)を絡めたモビリティ ・市内人口増加が認められる唯一の大谷地区だが、高齢化も進んでいる。 →相乗りタクシーに近い乗り物の導入(坂の多い地区での足、買い物に利用) ・歩行者が安全に歩ける道路整備(車・自転車の飛び出しに対応) ・交番の設置(交通網が激しいため・大谷地域のため)
		Threat(脅威)	<p>(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること</p> <p>03 高齢者も利用しやすいモビリティ導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通の導入 ・自動運転バス、オンデマンドによる高齢者、観光客へのサービス向上 ・高齢者が利用しやすい交通サービスの導入 ・新たな道路整備による、安全対策の実施。高齢者の安全対策 ・歩道を広げて高齢者になるべく自分で移動できる道路整備 ・移動の安全性、脱炭素社会に向けた取組(EV車、バス、コミュニティバス等) ・上記の新たな取組みにより、県外から企業を呼び込み人口減少に歯止めをかける(上記とはS×Oにある、脱炭素先行地域推進モデル地区～ のこと) ・災害に強いインフラ整備→道路の無電柱化・橋
	<p>【S×T:差別化方針】</p> <p>(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること</p> <p>03 高齢者も利用しやすいモビリティ導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通の導入 ・自動運転バス、オンデマンドによる高齢者、観光客へのサービス向上 ・高齢者が利用しやすい交通サービスの導入 ・新たな道路整備による、安全対策の実施。高齢者の安全対策 ・歩道を広げて高齢者になるべく自分で移動できる道路整備 ・移動の安全性、脱炭素社会に向けた取組(EV車、バス、コミュニティバス等) ・上記の新たな取組みにより、県外から企業を呼び込み人口減少に歯止めをかける(上記とはS×Oにある、脱炭素先行地域推進モデル地区～ のこと) ・災害に強いインフラ整備→道路の無電柱化・橋 		<p>【W×T:影響低減・防衛】</p> <p>(想定される最悪の事態を回避するには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策</p> <p>04 (会議の場では言及なし)</p> <p>このグループ〇〇がない状態が一番最悪という事を主に整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通が無い状態 ・自家用車による移動が過多となり、道路が渋滞する ・遠くて渋滞する。迂回路がない ・高齢者の外出しづらくなることからのひきこもり ・外出機会や手段が少ない。独居老人等が外に出るような仕組み <p>ex.健康関連イベント、施設、公共交通利用によるポイント付与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐輪場、駐車場の不足 ・災害の時利用できるモビリティの確保 →協定などによる地区内のガソリン供給、電気自動車のシェア、流通経路の確保

(2) まちづくりの方針、課題の整理 (4つの視点)

ウェルネス・課題

WSでのご意見		解決すべき課題
分類	主なご意見	
ア	歩行空間 ×モビリティ	<p>・外に出ることを考えたときに段差や坂などがあるから「別に用もないしやめとこ」という気持ちになる</p> <p>・歩行空間が整備されていない(道がせまい)(自転車)</p> <p>・自転車専用通路と分かれてきているが元の道幅が広がっていないので実質変わっていない</p> <p>・河川敷の再整備(ウォーキングコース)(サイクリングコース)</p> <p>・交通量が多くなった、暗いところも多い</p>
イ	歩く仕掛け(ソフト)	<p>・ウォーキングコース、ウォーキングマップがない</p> <p>・歩くコースがわからない</p> <p>・歩く×食べる、歩く×美の組み合わせ</p> <p>・歩けば歩くほどマイルがたまってポイントになるアプリ入れてから「あともう少し歩こう！」が増えた</p>
ウ	歩く仕掛け(目的地)	<p>・ウォーキングのみを主目的としないコースの整備</p> <p>・商店街との連携</p> <p>・気軽に行ける、フィットネスジム、温浴施設</p> <p>・海岸沿い(R150沿)の道の周囲のにぎわい作りにより「歩こう」と思わせる街づくりをする</p>
エ	マインド	<p>・「歩く」ことが健康につながるということは知っているけれどおっくうになってしまう</p> <p>・ひとりで歩くのが嫌、不安</p> <p>・健康に対する意識が低い</p> <p>・夏暑くて冬寒いからいつ散歩しよう…を考えているうちに1日が終わる</p> <p>・リモートで歩かなくなった(コロナ)</p> <p>・整体で歩き方教えてもらった→歩くのすごい!整体は身近!ってなればいいなと思った</p>
オ	歩きによる交流 ×コミュニティ	<p>・すれ違うときに会話やあいさつができるような関係性があると楽しい。</p> <p>・地域交流会の実施(参加協力できる事)</p> <p>・高齢者、一人暮らしの取組</p>
カ	医療	(関連する意見なし)

1. 移動の安全性・快適性向上(歩行者・自転車)

- ・歩行者・自転車にとって移動しやすい空間の整備
- ・歩道の広さ、平坦性などの確保

※「モビリティ」と共通

2. 歩き、健康維持の動機づくり

- ・歩く、走る、スポーツ等を促す仕掛けをつくる
- ・歩行促進ツール(ウォーキングコース、マップ、アプリ等)の作成、展開

3. 目的地となる魅力あるまちづくり

- ・魅力的な公共空間の整備や施設の誘致
- ・景観への配慮
- ・充実したサービス提供のための運営体制の構築

4. 歩き、健康に関する意識・意欲向上

- ・歩き、健康に関する意識、意欲や知識の向上を図り、個人での運動習慣構築に取り組む
- ・歩き、健康に関する学びの機会をつくる

5. 歩き、健康維持を通じた交流拡大

- ・個々人の健康維持のため、地区単位での取り組み
- ・健康活動団体等をつくり、交流を図る

6. 医療・福祉との連携

- ・医療機関や福祉機関と連携し、病気等を予防
- ・医療へのアクセス性向上等

(2) まちづくりの方針、課題の整理 (4つの視点)

ウェルネス・方針

		大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)	
		Strength(強み)	Weakness(弱み)
社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会)	<p>【S×O:積極方針】</p> <p>(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント</p> <p>01 みんなが歩きたくなるまちトコトコ大谷</p> <p>①歩ける環境をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> 調整池を周回するウォーキングコースを作る 競輪場を活かしたスポーツイベントの開催 東名まわり 暗い 危ない→歩く走るコースの整備 自動車を減らし歩道を作り歩きやすい空間を作る <p>②歩きたくなる仕組みを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康ポイントの導入 プロギングといったゴミ拾いしながらウォーキング、ランニングを行うイベント実施 →脱炭素社会の実現に向けてゴミの有効活用やリサイクル等 健幸アンバサダーで健康意識を高める ウォーキングの促進→「歩く人」が「街」や「高齢者」を見守る機能となる <p>③魅力的な場所を作る(歩く目的を創る)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人が集まる仕組みや空間を作る 地区資源などの活用(無人販売巡りマップ・田んぼアート・食文化(いちご、葱、生姜)等) スケールメリットを活かして「歩く」機会を増やす →健幸ポイント獲得 大谷・小鹿地区内の富士山ビューポイントの設定。歩いてビューポイントを回る <p>④多世代が交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康イベントに静大の学生にも活躍してもらって活性 子育て2世代を助ける高齢者と子供が交流するまち 静大生(若者)、子供、高齢者のつながり、お互いが見守られるまち 	<p>【W×O:改善方針・弱点強化】</p> <p>(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組</p> <p>02 (会議の場では言及なし)</p>
	Threat(脅威)	<p>【S×T:差別化方針】</p> <p>(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること</p> <p>03 (会議の場では言及なし)</p>	<p>【W×T:影響低減・防衛】</p> <p>(想定される最悪の事態を回避するためには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策</p> <p>04 歩けば、防災×健康×SDGs(環境)</p> <p>①防災とセットで歩く意識を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ハザードマップとウォーキングマップを掛け合わせる。防災意識を高める →3分でどこまで歩けるか?津波が来るまで →歩数を増やすのは難しい。坂を利用。運動強度を高める。 →高台への逃げる準備、高台を活かす →避難所の代わりとなるように高台の建設(軽い公園の設置)、子供たちの日常使い <p>②歩ける環境を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が外出しやすい歩道整備と見守りをする 歩道を整備する 公園を活用した防災対策×健康づくりを進める 目的、楽しみのあるウォーキングマップを作り歩く環境を作る <p>③自転車利用も便利にする</p> <ul style="list-style-type: none"> 車道と歩道に加えて自転車専用道路を!(緑化を上手にする) <p>③公共交通を便利にする</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通網を充実させて歩いてもらう バス停周辺の快適な環境設備 高齢者→バス停まで歩いて待っている間が大変 バス停に日よけベンチ掲示物(お散歩マップ等)

(2) まちづくりの方針、課題の整理 (4つの視点)

エネルギー・課題

WSでのご意見		解決すべき課題
分類	主なご意見	
ア	脱炭素	<p>1. 脱炭素社会実現への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 脱炭素を先行的に取組む地区としての発信、意識共有 脱炭素社会実現に向けて、他都市のモデルとなるような先進的な取組を行う
イ	既存資源の有効活用	<p>2. 既存の自然資源の保全・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の緑地や農地等の保全 既存の河川、農産物等を活用した取組み クリーンエネルギーの活用等
ウ	エネルギーの効率化 ・有効利用	<p>3. 地区内での電力の自給自足</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区で自立した効率的なエネルギーシステムの構築 恩田原・片山地区の取組の水平展開等
エ	安心・安全	<p>4. 災害対応力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害に備えた設備やシステムの構築 強靱なライフラインの整備 余剰電力の災害時利用
オ	電気、エネルギーへの意識	<p>5. 個人単位での電力消費の低減(省エネ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人での消費電力抑制 省エネ意識の醸成
カ	自動車依存からの脱却 (環境負荷低減) ×モビリティ	<p>6. 自動車以外の移動手段の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 過度に自動車に依存しない移動環境整備 エネルギーの融通によるモビリティとの連携 環境負荷の低減へと繋げる

(2) まちづくりの方針、課題の整理 (4つの視点)

		大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)	
		Strength(強み)	Weakness(弱み)
		【S×O:積極方針】	【W×O:改善方針・弱点強化】
社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会)	<p>(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント</p> <p>01 地域でエネルギーを産み出し使うことを可視化したり、アピールすることによるエリアブランディング・高速道路からの視認性 (広告価値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに作れるエコなまち エネルギーのつながり ・宣伝価値ブランディング ・企業・住民(高齢者、子育て)へのそれぞれ付加価値 ・PPA事業(太陽光発電) ・太陽光エネルギーの標準化、使用 ・地域で電力を融通しあうエネルギーマネジメントシステムの導入 ・EMS等を導入してエネルギーの効率利用を行う <ul style="list-style-type: none"> →新たな整備を進める地域 →国からの支援なども得やすい。需給予測、エリア間融通、自動制御など ・エネルギーの見える化を行う <ul style="list-style-type: none"> →使用状況を見ることは省エネ行動にもつながる →PDCAによる持続的改善。ナッジ ・クリーンエネルギーとのベストミックス EMS等の活用 ・農地、緑地と連携したバイオマス発電 ・農地、河川、緑地を活用した気温平準化 ・補助を受けて早期の整備エネルギー施設整備 ・三菱さんの工場でアニマルパス(動物の通り道) ・公園や緑があって子供を育てやすい環境の創出 ・生態系の回復 ・土地の造成、インフラ整備から開発する →この地区でしか実施できないアクションがある ・電気自動車 充電ステーションの設置 ・産業、商業、住宅、農地が整理されて立地 <ul style="list-style-type: none"> →一体でつなげるアクション ex.発電、蓄電、省エネ、各やりやすさ 	<p>(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組</p> <p>02 エコに暮らせる・移動できるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未開発エリアを想定した需要計画・送電網 ・電気バス巡回。交通不便の対策 ・V2H V2Bなど 電気自動車と施設のエネルギーのやり取り ・交通拠点、ターミナル、充電 ・EVバスの充電ステーション・一般車の充電ステーション・クリーンエネルギー <ul style="list-style-type: none"> EMSによる一体整備 ・エコ活動のポイントとインセンティブ付与 ・駐車場への案内 ・飲食店喫茶店、レストラン等の集いの場所
	Threat(脅威)	<p>(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること</p> <p>03 災害時にも安心して活動できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害後の必要電力の把握。蓄電量とその施設 ・BCPも考慮したEMS等の導入 ・ライフラインの整備。ガス、水道、下水 ・災害後の必要電力の把握。蓄電量とその施設 ・新規施設の屋根を活用した電力創出による電力の自給自足 ・電力の分配。電気料金増への対策 ・地域内での電力使用(マイクログリッド) ・地域で創出したエネルギーの備蓄(防災) 非常時電源の確保 ・河川水位情報の発信 	<p>(想定される最悪の事態を回避するためには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策</p> <p>04 「エリアで守る」コンパクトなまち(身近な防災×生活拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EVによるコミュニティバスの導入 ・防災拠点の構築 ・防災拠点、未利用農地から大街区化された地区の活用 ・高齢者の見守りネットワーク ・拠点あり「エリアで守る」 ・コンパクトなまちづくり。すぐ逃げられる。移動距離小さい ・防災施設の周りに必要な施設をコンパクトにまとめる ・マインド 醸成 学習 機械 ・宅配BOXの設置 ・節電行動のイベント化(楽しく節電する) ・高速道路SICすぐの物流の拠点の整備

(2) まちづくりの方針、課題の整理 (4つの視点)

全視点まとめ (案) ・方針

【参考】SWOT分析とは

- 地区の特徴に関する**内部環境**と**外部環境**を組み合わせ、**取組の方針を議論・発見するための方法。**
- 内部環境は「強み」と「弱み」、外部環境は「機会」と「脅威」に整理され、それらをかけあわせた四つのマスごとに取組の内容や方針について整理を行う。

		大谷・小鹿地区の強み・弱み (内部環境)	
		強み (Strength)	弱み (Weakness)
社会的な課題・機会 (外部環境)	機会 (Opportunity)	<p>地区そのものの利点、ポジティブな特徴</p> <p>【積極攻勢】方針</p> <p>・地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか</p> <p>他の地区にはない取組のコンセプト・アピールポイント</p>	<p>地区そのものの課題、ネガティブな特徴</p> <p>【弱手強化】方針</p> <p>・弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか</p> <p>地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な取組</p>
	脅威 (Threat)	<p>地区周辺や社会一般におけるポジティブな関連動向</p> <p>【差別化】方針</p> <p>・強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか</p> <p>社会的な課題解決に向けて地域独自でできること</p>	<p>地区周辺や社会一般におけるネガティブな関連動向、課題</p> <p>【防衛・撤退】方針</p> <p>・想定される最悪の事態を回避するには、何をすべきか</p> <p>最悪の状況を回避・緩和するための対策や最低限すべきこと</p>

(2) まちづくりの方針、課題の整理 (4つの視点)

全視点まとめ (案) ・方針

4つの視点の方針を総合し、地域全体の取組方針 (案) を整理

		大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)	
		Strength(強み)	Weakness(弱み)
↑ ハード的方針 (インフラ・拠点) ↓	Opportunity(機会)	【S×O:積極方針】	【W×O:改善方針・弱点強化】
		<ul style="list-style-type: none"> • すでにある場所(高速道路沿い・ビニールハウス)での情報発信や、地域主体の向上(コミュニティ) • 農・歴史を未来につなぐ多世代交流まちづくり(コミュニティ) • SICを活かしたまちづくり、次世代モビリティの導入(モビリティ) • みんなが歩きたくなるまちトコトコ大谷(ウェルネス) • 地域でエネルギーを産み出し使うことを可視化したり、アピールすることによるエリアブランディング・高速道路からの視認性(広告価値)(エネルギー) 	<ul style="list-style-type: none"> • 特徴を生かし注目度のある新しいコミュニティづくり(コミュニティ) • 異なるコミュニティの掛け合わせ(コミュニティ) • 乗り換え拠点の利便性向上(公共交通の利便性強化)、公共交通の再編・強化(モビリティ) • エコに暮らせる・移動できるまち(エネルギー)
	<ul style="list-style-type: none"> ●分野共通のイメージ 情報発信・ブランディング、多世代・次世代まちづくり SIC,農業・歴史的資源の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ●分野共通のイメージ コミュニティやモビリティの地域内結節点 ライフスタイルの革新 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●コンセプト案 「先進技術と自然・歴史が紡がれるエコ・ウェルネスタウン」等 	<ul style="list-style-type: none"> ●コンセプト案 「人・エネルギー・場所をつなぐマルチハブ」等 	
↑ ソフト的方針 (活動・仕掛け) ↓	Threat(脅威)	【S×T:差別化方針】	【W×T:影響低減・防衛】
		<ul style="list-style-type: none"> • 大谷・小鹿の人的・歴史的資源を活かし、新たに入ってくる人々との未来のコミュニティを創り出す。(コミュニティ) • 高齢者も利用しやすいモビリティ導入(モビリティ) • 災害時にも安心して活動できる(エネルギー) 	<ul style="list-style-type: none"> • 力ある地域のポテンシャルを活かした安全・安心なまちづくりへの多様な人の連携づくり。(コミュニティ) • 外出機会や手段が少ない。独居老人等が外に出るような仕組み(モビリティ) • 歩けば防災×健康×環境(ウェルネス) • 「エリアで守る」コンパクトなまち(身近な防災×生活拠点)(エネルギー)
		<ul style="list-style-type: none"> ●分野共通のイメージ 安心・生活しやすさ、地域外連携 (新規居住者との交流) 	<ul style="list-style-type: none"> ●分野共通のイメージ 地域内の連携、防災・健康・環境負荷低減のための仕掛け
		<ul style="list-style-type: none"> ●コンセプト案 「今後も多様な人々が住み続けられる未来のコミュニティづくり」等 	<ul style="list-style-type: none"> ●コンセプト案 「『まち』のみんなで取り組むコンパクトな活動づくり」等

← 地域外連携方針 (地域外へのアピール、対外連携)

→ ← 地域内連携方針 (地域内の充実化、域内連携)